

在京花巻人

発行 在京花巻人会
連絡事務局

東京都千代田区飯田橋
4-4-8 東京中央ビル603号
電話 03-6256-8082

平成30年度の活動方針

在京花巻人会 会長 瀬川 紘一



平成30年も5月を迎え、早いもので今年の「在京花巻人のつどい」まで2か月を切りました。今年7月7日(土)午前11時から、例年と同じ御茶ノ水の東京ガーデンパレスが会場です。是非、皆様お誘い合わせの上でご参加頂きますようお願い申し上げます。

念行事を用意しており、その狙いは「明治の精神に学び、日本の強みを再認識すること」とのことです。昨年出版された維新関係の著作の中で、苅部直氏による『維新革命』への道」が明治維新に新たな光をあてたと注目されています。この本を読むと、明治維新とそれに続く明治という時代は、「明治の精神」とか「日本の強み」といった言葉ではとても語りえないものだったようです。例えば、維新が単に幕府から朝廷への政権交代だけではなく、武士支配階級の廃止にまで至ったという事実一つをとっても、「生まれ育ちに関係なく努力次第で認められる社会」という人類共通の理想を追求しようとしていたとの指摘があり、これは確かに明治も日本も超えてしまっていると感

じました。「明治150年」は過去に学び再認識する機会というよりも、150年前に提起された課題に私達がこれからどう取り組むかを考える機会であるように思います。ところで、各地方で起きた幕末の打ち壊しや世直し一揆といった民衆の変革のエネルギーが、討幕を目指す志士達と結びついて明治維新という社会変革を可能にしたと言われています。幕末には稗貫・和賀地方の一揆の数が日本で最も多かったことや、維新後いち早く花巻から多くの優れた宗教家が輩出したことなどが伝えられています。「明治150年」は私達にとつて身近なテーマであり、花巻における維新や明治の時代を考える良い機会でもあると思います。私達は、ふる里花巻についてもっと知る必要があると痛感しました。

会費納入のお願いと納入状況の報告

1. 平成30年度会費納入のお願い

在京花巻人会の運営にご協力を賜りありがとうございます。花巻人は会員の皆様からの会費で運営させて頂いています。会費は「花巻人のつどい」、「会報」発行、「歩こう会」等に使用させて頂いています。

30年度の会費3,000円は同封の振込取扱票(手数料不要)で最寄りの郵便局より下記の口座にお振込み頂きますようお願い申し上げます。

在京花巻人会 会長 瀬川 紘一

- 座名義 在京花巻人会
- 座記号番号 00240-6-111794

2. 平成29年度の会費納入のお礼と納入状況報告

29年度の会費納入額は3月末現在277名831,000円、その他9名の方から55,000円の寄付を頂き合計886,000円でした。会員皆様のご理解とご協力に感謝とお礼を申し上げます。

会計担当 高橋良光・板垣雅子

さて今年度の活動方針ですが、例年と同じく会員相互の親睦を図ることと花巻市の活性化への貢献の二本柱です。まず花巻市の活性化に貢献するための活動ですが、今年度は会員と地元花巻を繋ぐ活動にさらに注力していきます。その中心は、会報やメルマガを通じて地元花巻の幅広い情報を出来るだけ多く会員のもとにお届けすること、又、各種の花巻観光物産展や花巻を紹介するイベントなどへの会員の参加も積極的に呼びかけます。今一つの課題は、会員の地元花巻の色んなセクターの方々との交流です。例年、「在京花巻人のつどい」は市長はじめ花巻からの来賓との交流の場になっていきますし、

昨年は「花巻イーハトーブ大使との意見交換会」が開催され交流が図られました。今年度はさらに新たな交流の場を模索したいと思えます。会員同士の交流の促進については、今年度も「つどい」と「歩こう会」が中心になりますが、その他の首都圏での花巻関連の催しにも積極的に会員の参加を呼び掛けます。又、花巻の他の在京ふるさと会の催しへの会員の参加の呼び掛けにも力を入れます。昨年度は、例年新井薬師梅照院の節分会で演舞を奉納する東和町丹内獅子舞一行の歓迎会を4つの在京ふるさと会の会員が参加する形で実施しましたが、このような機会をさらに増やしていきたいと思

平成30年度「第33回在京花巻人のつどい」のお知らせ

日時：平成30年7月7日(土) 11時~14時
会場：東京ガーデンパレス
住所：東京都文京区湯島1-7-5
電話：03-3813-6211
アクセス：JR御茶ノ水駅 聖橋口

ます。以上のような方針に基づく今年度の具体的な活動計画については、「平成30年度在京花巻人のつどい」の総会でご提案させて頂きます。是非ご参加いただきご審議頂きますようお願い申し上げます。

会員の活動報告コーナー

新井薬師梅照院 節分会で演舞の

丹内金津流獅子躍

在京花巻ふるさと会

会長 瀬川 紘一

今年も去る2月3日、東和町谷内の丹内金津流獅子躍一行が新井薬師梅照院の節分会で演舞を奉納しました。今年が25年目とのことで節目となる演舞となりましたが、獅子躍の重厚な演舞は歴史を感じる梅照院の佇まいにとても似つかわしく、同郷のものとしてとても誇りに感じました。



まず午前は境内で厳かに演舞を奉納、午後は2時過ぎに中野のサンプラザ前で演舞を披露し大勢の観客を楽しませました。その後、中野の繁華街から一行を待つ人々で溢れた新井薬師の参道を福豆を配りながらパレードして4時頃に梅照院に戻りました。午後4時過ぎに女優の松原千恵子さんや有力士などが参加する豆まきが開始され、その冒頭にこの日3度目の演舞を参拝客で溢れかえった境内で披露しました。

さて、在京花巻ふるさと会では前々から折角花巻から来られている丹内獅子躍一行を歓迎し慰労したいとの意向を持っていました。今回、25年前に丹内獅子躍を梅照院に紹介され今日までお世話を続けてこられた前在京東和町友会会長の佐々木幸三さんの尽力で、一行との懇親会を実現することが出来ました。

懇親会は17時30分頃から炙谷中野店で開催されましたが、19時頃に丹内獅子躍の小原源四郎代表以下12名と花巻市から薄衣孝史工業労政係長の合計13名が駆けつけてくれました。在京花巻ふるさと会からは各ふるさと会の会長をはじめ会員も含めて18名が参加し30名を超える大盛会となりました。会場が手狭なため2部に別れての懇親会となりましたが、丹内獅子躍一行には朝から踊り詰めでお疲れにもかわらず、元気に在京側の皆さんと交流して頂きました。

花農米による 「ヒカリノミチ」生酒 試飲会と産学協同

去る2月17日(土)の昼、魚や一丁銀座本店で花巻農業高校の産米「ひとめぼれ」を100%使って川村酒造店が醸造した純米酒 南部関「ヒカリノミチ」新酒生酒の試飲会が行われました。

出席者は花農同窓会員を中心に在京の各花巻ふるさと会の会員20名弱、花巻からは花巻農業高校の郡司悟校長も参加されました。「ヒカリノミチ」は搾った後一切処理をせずそのまま瓶詰めにした純米無濾過生原酒とのことで、大変飲みやすく参加者はかなりのピッチで試飲を楽しんでいました。話題は地元花巻のこと、若かりし頃の事になり、次第に訛りも出て盛り上がりました。なお、名前の「ヒカリノミチ」は宮澤賢治が作った「精神歌」の一節にある言葉で、花巻農業高校の生徒たちの歩む未来を表している」と解釈されています。

岩手県人連合会 「新春懇談会」

副会長 高橋 千代吉

立春の日の2月4日JR日暮里駅近くのホテルラングウッドに於いて12時より恒例の新春懇親会が開催されました。各ふるさと会56団体などから216名が参加、中でも在京花巻ふるさと会からは参加加盟団体の中でもトップで特別賑やかに盛り上がりました。



開会に先立ち、琴と尺八の奏でる名曲「春の海」などの素晴らしい演奏があり、続いて鈴木文彦県連会長より若竹千佐子氏(遠野市出身)の芥川賞受賞作品「おらおらひとりだけでいぐも」を褒め称えたご挨拶があり、鈴木直岩手県東京事務所長からは北上市に2,000人雇用の大企業進出で工事が進んでいる等々、新春ふる里若手の明るい話題に会場が和みしました。懇親会も次第に熱気が漂いかん高いなまりの会話が飛び交う会場では、10数年振りの意外な人との出会いもあったりで楽しい一時でした。

「花巻産直市 in 平塚」 開催

副会長 島山 秀

花巻産直市 in 平塚が今年も2月15日〜18日までの4日間、平塚市民プラザで開催され、天候にも恵まれて開店前から多くのお客様で店頭に行列ができる賑わいでした。開店を前にして、平塚市友好都市提携委員長 平野恵美子様から激励のご



挨拶があり「花巻市と友好都市を提携して今年で33年を迎えますが、多くの平塚市民に愛される産直市として定着できたことは、参加される皆さんの努力の賜物」と感謝されました。続いてご挨拶の白金豚の高橋社長より「平塚市民に一層喜んで頂けるように頑張ります」とのお言葉で、産直市初日をスタートしました。金婚亭のキムチャYA花巻のリンゴなどは相変わらずの人気で終日特に混んでおりましたが、15年前平塚市産業部から強い要請を受けて、JA花巻の藤原組合長さんと共に立ち上げた時の「花巻物産展 in 平塚」の賑わいを知っている在京会メンバーにとっては少し物足りない感じのする産直市のスタートでした。

湘南平塚市民の皆さんの要望に沿った産直市にすることが上田花巻市長の掲げる交流人口の拡大にも繋がるものと今後一層の発展を祈念いたします。

宮澤賢治、新渡戸稲造 没後84年記念シンポジウム「サムライ・武士道を読む」に参加して

去る4月1日(日)、八重洲ブックセンター本店8階ギャラリーにおいて、表題の講演とシンポジウムがあり、参加してきました。主催は北上ふるさと会の会員の高橋富子さんが主宰する「さぎそつこの会」、後援が宮澤賢治学会イーハトーブセンターと鎌倉賢治の会でした。新渡戸稲造は1862年、宮澤賢治は1896年生まれで年齢はかなり離れているのですが、亡くなったのは奇しくも共に1933年です。

者で、元牧師でエッセイストの太田愛人氏から講演がありました。この本には、新渡戸稲造の「武士道」が書かれた背景や内容にいかにか岩手の歴史や人物が深く関わっているかが書かれています。太田氏は今年90歳ですが大変お元気で、稲造が特に南部武士の子であったこととキリスト教徒であったという視点から「武士道」を解説してくれました。

花巻への言及も多く、特に斎藤宗次郎や照井真臣乳、それに山室機恵子といった優れたキリスト者を輩出した花巻のユニークさを強調しておられました。

宮澤賢治は法華経信者ですが、明治から大正の花巻の精神文化(キリスト教を含めた)と深く関りがあつたのだらうと想像させられました。

14時30分からはシンポジウムで、宮澤賢治記念館学芸員の牛崎敏哉氏、宗教学者の大角修氏、大江戸探索会会長の菊池威氏、それに司会も兼ねた台湾・崇右影芸科技大学名誉教授の千葉剛氏の4名がパネリストとして登壇しました。牛崎氏は、新渡戸博や山室機恵子に言及しながら、明治維新後の花巻は新しい考え方や文化がどっと入り込む中で、稲造や賢治を生んだと解説。大角氏は全品現代語訳法華経の著者ですが、明治・大正の日本人の精神の変遷に合わせ稲造と賢治の作品を位置づけていました。菊池氏は、賢治の「雨ニモマケズ」の文末にある「南無妙法蓮華経」や、稲造の「世渡りの道」に注目していること述べていました。千葉氏は、三島由紀夫の「葉隠れ入門」や市谷駐屯地で撒かれた「檄文」を取り上げ、真の武士道と死について問題提起されました。四氏それぞれ観点からのお話はバラエティーに富んでおり、しかも幅が広く、テーマの深さを考えさせるシンポジウムでした。

お花見クルーズに参加して

在京花巻人
会長 瀬川 紘一
今年も在京石鳥谷町人会企画による「お花見クルーズ」が、去る4月8

日(日)に挙行され、在京花巻ふるさと会の大迫、石鳥谷、東和、花巻の各ふるさと会の会員約30名が参加し楽しみました。お花見クルーズは日本橋発着の100分の桜周遊クルーズで、私達は正午12時に乗船、今年は既に桜は散って葉桜となっていました。好天に恵まれ楽しいクルーズとなりました。この日は、たまたま日本橋の生誕日4月3日を祝って行われる「日本橋祭り」が行われていて、乗船前に消防音楽隊の演奏も楽しむことが出来ました。

コースは、日本橋川を後楽園まで遊り神田川に入り隅田川まで下り、隅田川を永代橋まで下って大横川に入り、戻って佃大橋の手前から亀島川にはいり日本橋に戻りました。桜はみられませんが、大横川では船上の新内流しに出会うハプニング



もあり、ガイドの名調子で楽しく江戸から東京への歴史の痕跡をたどることが出来ました。

クルーズの後は、日本橋のたもとで住所も中央区日本橋1-1-1、店名も「二ホンバシイチノイチノイチ」という洒落たレストランで飲み放題のランチ二次会となりました。在京石鳥谷町人会の高橋弘美会長の乾杯で宴がスタート、料理もお酒も一級品で一同大いに楽しみ盛り上がりました。二次会の最後は、在京東和町友会の蟹沢会長の首頭で三本締めで中締めとなりました。

《はなまき あれこれ》

元気な町花巻市の復活を目指して

任期満了に伴う花巻市長選挙は1月21日に告示され、上田東一氏のほかに届け出がなかったため無投票となりました。1月28日、選挙会が行われ同氏が当選人として決定。1月29日、奥山隆市選挙管理委員会委員長から当選証書が付与されました。市民の期待を担う上田市政、2期目のスタートです。

上田市長は、市長就任後ただちに「花巻市人口ビジョン 花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に取り組みました。この中長期ビジョンのもと、市政の重点項目として「産業振興が図られ、仕事と賑わいのあるまち」「子育て・教育環境が整い、子供がたくましくそだつまち」「必要な医療や福祉サービスが受けられ、安心してらせるまち」「豊かな文化が薫り、スポーツ活動がかっばつなまち」「緑豊かな自然環境が守られ、災害への備えを怠らないまち」の五項目を挙げ取り組みを進めてきました。

さらに、「立地適正化計画」を全国3番目に策定す

るなど、着々と「元気なまち花巻市の復活」へ向けて具体的な施策を実行に移しつつあります。花巻地域の中心市街地の活性化に向けて国の支援事業を活用するなど、中央ともしっかりと連携しており、無投票による当選は当然とみられています。

今後4年間、総合花巻病院の移転、災害公営住宅の整備などの具体的なプロジェクトの推進、農業・観光・商工業の振興や幹線交通の維持などによる市民の利便性・安全の確保、子育て支援の充実などでの手腕が期待されます。



(広報はなまき2/15号から)

「第60回わんこそば全日本大会」開催される

花巻の冬の風物詩「元祖！わんこそば全日本大会」は、今年で60回の節目を迎え、2月11日文化会館で盛大に開催されました。今年は記念イベントとして全国6か所と香港、台湾、それに最終戦として花巻場所が開催され、各優勝者（横綱）が全日本大会に出場し「地方場所千秋楽横綱対決」が行われました。

全日本大会の個人の部、小学生の部、一般団体の部の3部門には約180人の胃袋自慢が参加し、行司の「食べ、食べ、飲め、飲め」の掛け声や、応援団の声援を受けながら、それぞれのペースでそばを流し込んでいました。「地方場所千秋楽横綱対決」では、地方予選優勝者9名と前回優勝者の合計10名が激突、結果は前回優勝者の井本英明さん（神奈川県）が253杯で5連覇を果たしました。

ところで、花巻名物元祖わんこそば

ですが、花巻市内に四か所楽しめる店舗があります。

明治37年創業の「嘉司屋」（東町）、大正12年創業の「やぶ屋」（吹張町）、金婚漬で有名な「金婚亭」（西宮野目）、そして銀河鉄道の夜をモチーフにした「銀河プラザ山猫軒」（新花巻駅前）です。帰郷の際に一度試してみたいはいかがですか。

(広報はなまき3/1号、花日和2017冬号より)



花巻市立地適正化計画が都市計画協会会長賞を受賞

昨年11月16日、盛岡市で行われた都市計画全国大会において立地適正化計画を策定した花巻市が都市計画協会の会長賞を受賞しました。大会では、盛南開発による交流拠点づくりが評価された盛岡市、オガールプロジェクトによる公民連携手法のまちづくりが評価された紫波町と共に、花巻市の取り組みが高く評価され受賞したものです。

立地適正化計画は、人口減少、財政・交通問題を抱える都市において持続可能なまちづくりを進めるために策定される計画。花巻市の計画については会

報でも何度か取り上げていますが、一昨年6月に全国で3番目、東北では初めてとなる計画を発表しています。

市は計画に基づき市街地の活性化や市内4地域のサービス拠点の維持、公共交通網の確保に取り組んでいます。今後は、総合花巻病院の移転支援や新花巻図書館の整備、くつろぎと交流の創出拠点となる広場の整備のほか、JR東日本と共に花巻駅の橋上化などの可能性について検討を始める予定とのことで

(広報はなまき12/15号より)

ぐるっと花巻再発見 —イーハトーブの先人たち—

昨年12月9日から今年の1月28日まで、花巻市の五つの文化施設で「イーハトーブの先人たち」をテーマに本庁生涯学習課による共同企画展が開催されましたが、ふるさとの先人や功績を学ぶということで、多くの市民から大きな関心が寄せられました。

共同企画展の内容は、新渡戸記念館では「稲造の曾祖父・新渡戸維民」、萬鉄五郎記念美術館では「寺島貞志〈戦後の歩み〉展」、花巻市博物館では「及川全三と岩手ホームスパン」、総合文化センター（大迫支所）では「大迫の歴史をつくった先人たち」、高村光太郎記念館では「高村光太郎・書の世界」と多彩な内容でした。

各施設とも市内の小中高校生や富士大学生は「学生証」の提示で無料、スタンプラリーも行われ共同企画展会期中は開催館5館の内3館のスタンプを集めた人に記念品が送呈されました。バスツアーも企画され、12月14日と1月12日に参加料・入館料無料、それぞれ30名の参加で実施されました。

(広報はなまき他から)



宮澤賢治童話村「アニメ聖地88」に選定

「イーハトーブフェスティバル」や多くのイベントが開催され、賢治の学校などで賑わいを見せている童話村。在京花巻人会が17年前に、15周年を記念して植樹をおこなったところでもありますが、皆さんも一度は訪ねたことがあると思います。



賢治の学校
「ファンタジックホール」

その宮澤賢治童話村が「訪れてみたいアニメ聖地88(2018年版)」の一つに、県内から唯一選定されました。選定したのは「一般社団法人アニメツーリズム協会」で、アニメや漫画の舞台、モデルとなった地域・場所、或いは作家ゆかりの街や生家、記念館や施設等を指定し

ています。童話村は、賢治作品がアニメ化されていることから「作家ゆかりの施設」という位置づけで選出されています。

同協会はアニメの聖地を核に、地域の名所や名産品を巡る観光ルート造成を計画しており、童話村にも聖地認定プレートや御朱印(スタンプ)が設置される予定とのことです。現在童話村では野外ステージの改修工事も始まっており、さらなる賑わいが期待されます。



宮澤賢治童話村と賢治の学校

(広報はなまき1/15号から)

花巻東 第90回選抜甲子園大会に出場

3月23日開催された大会に昨年秋東北大会準優勝の花巻東が出場しました。今回選抜3回目の出場で初出場は2009年菊池雄星を擁して準優勝、2回目は2012年大谷翔平が引っ張り、今回は多彩な投手を揃えて望んだ大会でした。今回もベンチ入りした18名は全員県内の選手でした。初戦は愛知の東邦高校(選抜29回出場)の強豪校)で試合が始まると前半で5点を取り有利に試合を進めるが、後半の追い上げをなんとか抑えて5対3で勝利。2戦は滋賀の彦根東と対戦。投手戦となり花巻東は9回までノーヒットノーランで完全に抑えられていたが10回にヒット2本で1点を取り、なんとか勝利しベスト8に進出。準々決勝は選抜連覇を狙う大阪桐蔭、やはり前評判通りの選手が活躍し完敗で、結果は大阪桐蔭が優勝。花巻東高は第100回となる夏の大会出場を目指し、

昨年の秋から特に投手の練習に力を入れていたとのこと。夏の甲子園出場も期待しながら応援した今選抜大会でした。
(花巻東高のファン)





今回の思い出コーナーは、特別編として私達の思い出コーナーの舞台となつている「花巻」という町の成り立ちについてのお話です。梅津興三氏

が2年前に花巻信用金庫で講演した内容に加筆・修正したものを、今回2回に分けて掲載させて頂くことになりました。お楽しみ下さい。(編集部)

昔の花巻商人 (前篇)



梅津 興三

(昭和31年花中卒)

1. 町の始まり

花巻の四日町に北松齊親子により「市」が開かれ(文禄2年、1593年)、その時が花巻の開町とされ、それから丁度425年間経ちます。太閤秀吉の連合軍の支援の下で、南部藩が三戸南部(信直)を中心に統一されたのが、その2年前の天正19年(1591年)。それまでこの地を統治していた稗貫氏は伊達政宗の動きを見つつ親類筋の和賀氏・葛西氏と共に秀

吉参陣(小田原城攻め時)を怠つたため取り潰しとなり(奥州仕置)、稗貫・和賀地域は新たな南部藩の所領に。その時秀吉5奉行の筆頭格である浅野長政(長吉)が花巻に関わる重要な指示を3つ行いました。

1つは、これからの南部藩の本拠の城は三戸でなく、南の不来方城(三戸南部の家臣福士氏の居城、後の盛岡)に移しなさい。三戸のような山城では太閤殿下に疑われますし、これからは開けた土地に平城を築き町を発展させること。2つ目は、南の国さかいの鳥谷ヶ崎城(花巻城)をしつかりとした城にし、そのあるじには九戸南部征伐時に最も武勇優れた

北秀愛にしなさい。ただ秀愛は戦いの傷で数年後に亡くなり、あとを父親の信愛(北松齊)が引き継ぎましたが、この北松齊は南部藩随一の優れた家老で、伊達政宗も彼には一目も二目も置いて、北松齊の花巻城を潰せば南部を潰せると常に言っていたようです。3つ目は、自分(浅野長政)の家来を召し抱えてはと強制しました。その後南部藩の浅野10人衆として活躍し、その浅野10人衆の家来が豊沢川南(今の桜町)の同心屋敷に居住しました。

これら3つはすべて伊達正宗を北の方から牽制、今流の言葉では、伊達藩への抑止力そのものです。おそらく秀吉が天下統一後でも最も警戒したのは伊達正宗であり、事実、和賀氏・大迫氏・葛西氏の残党及び農民一揆の反乱には常に伊達の濃い影があり、その鎮圧には南部藩は非常に手こずりました。花巻城と町中は2度にわたって戦場となり、最後の戦いは岩崎城(現北上市岩崎)と和賀氏・大迫氏はこの岩崎城で滅亡しましたが、これらの戦いで北松齊親子の活躍は目覚ましい

ものがありません。以上のような伊達藩に面した南部藩南端という花巻の地政学的な位置付けは、いろいろな意味でその後成長していく花巻商人の気質の要因・背景になっていったと思われ

ます。 こうした政治状況の中で、北松齊親子はそれまでの土壘に過ぎなかつた堀を深く掘り下げて水を入れ防衛体制を強めるとともに、花巻の町としての経済的發展にも采配を發揮し、戦場から離散していた人々(町民・農民)を御触れ等で戻し、四日町の市に続いて川口町(里川口)に八日市(今の上町)、更に一日市を開いた他、近郊の寺を町に移転させ、例えば安淨寺を湯口から、光徳寺を太田・根子から、専念寺を鍋倉からなど、妙円寺と広隆寺のご住職の話では、旧川口町(現花巻病院・坂本町より南)の寺は殆んど北松齊が花巻に来てからとのこと。市と寺があれば、順次人々は自然と集まってきました。

展には更に「大迫」の存在が大きかったと思うようになってきました。花巻の四日町の市が開かれる前、稗貫氏の時代に、この地域に既に4つの市があり、太田清水寺の門前市、稗貫氏の菩提寺である大興寺近くの八日市(現在の八日市)、それに大迫の九日市(これが岩手最古の市場と言われている)と、亀が森の三日市でした。大迫と亀が森とは隣り合わせです。購買力のある人々が大迫・亀が森地域に数多く住んでいたと推測され、その時点で早池峰の山岳信仰、三陸海岸地域との交通要路というだけでは納得しかねます。

やはり、大迫地域の金山です。 別図は、昭和60年頃発行された大迫町史、産業編の中からコピーしたものです。如何にこの地域に金山、主に砂金ですが、多かつたか一目瞭然です。幾つかの岩手の歴史・金山にかかわる本を読みますと、平泉藤原三代以前、以降でも、岩手県南から大迫地域まで金山が存在しておりましたが、南部藩統一後の1594年頃から大迫で大きな金山(八木沢)が見つ

かり、それ以降も小規模ながら金山が見つかった、藩としては金山奉行をおいたり、専門家の金山師に請負せたりしました。一方では「やませ」が多く常時苦ししい南部藩の財政でしたが、これらの金山によって藩の財政は大きく支えられたと思われます。最盛期には、隣りの紫波佐比内を含め、山師大工が1万人以上、傾城(遊女)5000人、内川目の猫底だけで長屋200軒、などと言われております(厚朴金山覚書状)。その時期にこの地域でどれだけの人口だったのか……最盛期には2万人以上であったのではないかと推測されます。

2. 大迫の存在

ところで私の最近の調べでは、花巻の商業の発

展には更に「大迫」の存在が大きかったと思うようになってきました。花巻の四日町の市が開かれる前、稗貫氏の時代に、この地域に既に4つの市があり、太田清水寺の門前市、稗貫氏の菩提寺である大興寺近くの八日市(現在の八日市)、それに大迫の九日市(これが岩手最古の市場と言われている)と、亀が森の三日市でした。大迫と亀が森とは隣り合わせです。購買力のある人々が大迫・亀が森地域に数多く住んでいたと推測され、その時点で早池峰の山岳信仰、三陸海岸地域との交通要路というだけでは納得しかねます。

やはり、大迫地域の金山です。 別図は、昭和60年頃発行された大迫町史、産業編の中からコピーしたものです。如何にこの地域に金山、主に砂金ですが、多かつたか一目瞭然です。幾つかの岩手の歴史・金山にかかわる本を読みますと、平泉藤原三代以前、以降でも、岩手県南から大迫地域まで金山が存在しておりましたが、南部藩統一後の1594年頃から大迫で大きな金山(八木沢)が見つ

儀(幕府)は南部の金山を狙っており、と云います。金山の坑夫の募集は、江戸、仙台では一切やらないようにしていたとか、徳川將軍の交代時には全国で石高の検査があり、南部藩では盛岡・花巻の他必ず大迫にも立ち寄るが(ある時期までは遠野まで)、その際検査する人が通る道の側に発掘中の金山があれば急遽閉鎖するとか、南部藩直轄の岳妙泉寺の不思議な役割りなど……。

最盛期以降は生産量が減少しましたが、南部藩としては出来るだけ目立たぬように幕末まで掘り続けていたようです。

私はかねがね、小さい頃からお年寄りやいろんな人から聞いて、大迫に親戚もいて、大迫という町は不思議な所だと思っております。

・戦国時代に、稗貫氏の軍が大迫・亀が森氏の連合軍に蹴散らされている

・山あいの地でありながら、昔から大迫には金持ちがいる、また花巻・盛岡間の丁度真ん中の日詰・彦部に財を成した多くの人がいた

・色鮮やかな早池峰神楽

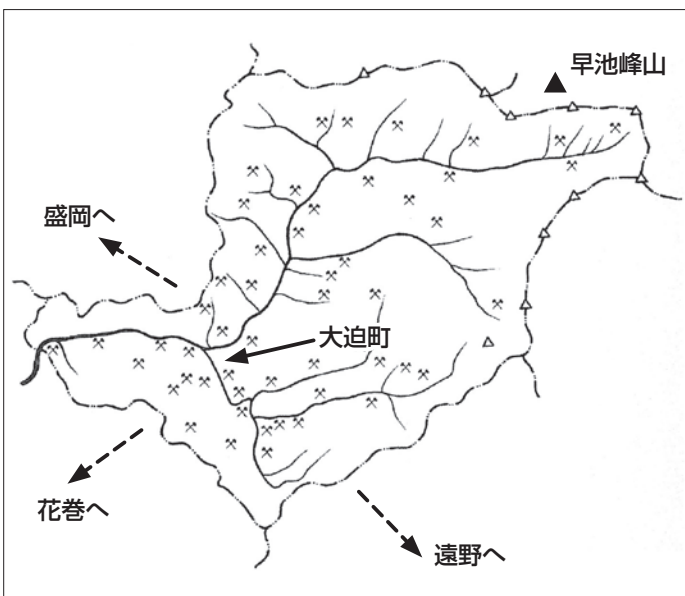
が長年伝承されている、金掘りという演目も

・絢爛豪華なお雛様

・大迫美人、優秀なお婿さんが大迫から沢山花巻へ

以上のような疑問点は、従来からの宿場町と山岳信仰・江戸時代の煙草・明治時代の生糸等だけでは理解出来なかつたのですが、古くからの大迫の金山・砂金の存在により、なるほどと思えるようになりまし。人々が各地から集まってきた活力が生じ、そして外では目立たないように家中では豪華に、ということだったんでしよう。

日本最初の重要無形民俗文化財であり、ユネスコにも登録されている早池峰神楽、それに町中の各商家の豪華なお雛様、これらは立派な文化遺産です。日本・世界どこでも、文化遺産・文化力のある所には、必ずかつては大きな経済力があつたことは歴史的に明らかなことです。花巻の町中であのようなお雛様をもっている商家はありませんでした。(せいぜい大迫の名家から嫁入りしてきた大津屋さんぐらい)



稗貫川水系と金山所在地

また、大迫金山について、最近、大迫の歴史研究家の小野義春氏、中村良幸氏、両川典子氏やイーデルワイン社長の藤館昌弘氏とお話しする機会があり、益々その思いが強まりました。その中で藤館氏からは「宮城県北部に行く、一迫(いちはさま)川、二の迫川、三の迫川、合流して迫川、地名に迫という所もあり、昔々「迫」族という金を求めて動く武士集団があり、その一族が北上して早池峰山麓で、こんなに砂金があるのだから、大きな迫、と

なつたのでは……」という興味深いお話を伺いました。その後東京に戻る途中、くりこま高原駅でレンタカーを借りて、その迫川流域を見て回りました。古くは奈良時代に日本で初めて金が遠田郡黄金迫(今の涌谷町)で発見され、その後宮城県北部から北上川流域・北上山地・気仙地域・奥羽山脈東側にわたって大小様々な金山・砂金が見つかり、言ってみれば、坂上田村麻呂・前九年の役・後三年の役・藤原三代などは、金にまつわる歴史であると改めて思い

ました。

宮城県北から岩手中部地域では、今でも「金」のつく地名・川が、金成・金目・黄金堂や金流川・金生川など、数多くあります。

いずれにしても、16世紀末からの大迫・佐比内地域での金山・砂金発見により、これら地域の「衣食」はどうだったのであろか。山あいの地域であるので、自給自足的な経済活動はなかなか難しいと推定され、これら地域への、米(稗・粟を含み)・味噌・しょうゆ・お酒、それに坑夫用の古着衣類その他生活用品等の供給を考えると、当時は大迫・花巻・盛岡の(いびつではあるが)三角形デルタ経済圏が形成されていた、と想定せざるを得ません。大迫に近い新堀・石鳥谷・宮野目・八重畑・小山田・土沢等からの食糧供給は間違いなかつたと思われますし、更にこれら地域の人々がその分豊かになつて購買力を高め、それが花巻商人の成長に貢献し、謂わば直接的のみならず間接的にも大迫の存在は大きかつたと思われます。

南部牛追い唄の、西も

東も金の山、東の金の山は大迫・早池峰山麓でしょう。

なお、花巻開町から380年ぐらゐ前(藤原三代の滅亡後)の話となりませんが、親鸞聖人の高弟子「是信房(せしんぼう)」が師の指示に従つて奥羽地方の布教に赴きました。出羽(大曲地域)、和賀中笹間(今の花巻市)等を経て、最終的には紫波彦部(新堀の北)で地元有力者の支援を得て、本誓寺を建立し(建保3年、1215年)、この地域で浄土真宗を広めました。本誓寺はその後、紫波氏の日詰、南部氏の盛岡に移転させられ、現在は盛岡で岩手の浄土真宗の中心の本寺となつております。彦部本誓寺の跡地に立つと、西に北上川、東は北上山地(大迫・佐比内)が迫り、それほど農地が拓けている所ではなく、出羽・笹間等の経由地と比較すれば明らかです。布教対象の人々には農業に携わっている人々だけとは考え難く、やはり昔からの早池峰山麓の砂金・金山の従事者が数多く含まれていたと考えざるを得ません。

(続く)

第8回ふるさと復興支援ツアーのお知らせ

今年で8回目を迎える復興支援ツアーは、今回は在京大迫人会が幹事となり「おはさまワインまつりと気仙沼の旅」と銘打って9月に実施されます。復興支援ツアーにご関心をお持ちの方は、在京花巻人会副会長高橋良光までご連絡下さい。

旅程： 9/15 (土) 8:10 鍛冶橋駐車場集合 8:30 出発 → 北上市みちのく民俗村 → 湯の杜ホテル志戸平泊
 9/16 (日) 8:30 ホテル発 → 高村光太郎記念館 → 大迫向山森林公園 → 記念碑「郷愛」にて記念撮影 → ワインまつり (早池峰神楽、ワイン娘ブドウ踏みなど見学) → 桂林寺 → 気仙沼温泉プラザホテル泊
 9/17 (月) 8:30 ホテル発 → 唐桑半島ビジターセンター・津波体験館 → 国民宿舎からくわ荘にて昼食 → 13:30頃出発 → 19:00頃 東京駅前着 解散

参加費： 40,000円 (2泊3日6食付き) **参加募集人員：** 44名 (高橋良光 090-5448-8198)

「花巻祭りツアー2019」実施のお知らせ

ふるさと復興支援ツアーも今年で8回目を迎え、幹事が各在京ふるさと会を二巡したところで、新たな形にしようとして在京花巻ふるさと会の役員会で検討をしてきました。その結果、来年は花巻祭りを中心に旅程を組むことが決まり、在京花巻人会が幹事を務めることになりました。来年の事でもありまだ未定の部分も多くありますが、在京花巻人会の会員には是非沢山の方に参加して頂きたく、ツアーの概要をお知らせ致します。具体的な旅程の内容は、今後変更がありえますことをご諒解下さい。

旅行期間： 2019年9月13日(金)～9月15日(日) 2泊3日 参加者50名予定

費用： 未定 (見通しがつきしだいお知らせします。)

旅程： 9/13 (金) 東京駅9時集合 やまびこ45号 9:45東京駅発
 新花巻駅12:41到着 13:30～15:30花巻郷土芸能祭見物
 17:30～19:30 懇親宴会
 20:00～21:00 群舞かがり火鹿踊見物 花巻温泉泊
 9/14 (土) 10:00～11:30 花巻祭り特産品フェア (花巻市民体育館)
 17:00～19:00 お祭り広場屋台村 (エセナ跡地) などで夕食
 19:10～21:00 花巻まつり見物 ホテルグランシエール泊
 9/15 (日) 10:00～14:30 土澤祭り見物
 新花巻駅はやぶさ106号16:19発 東京駅18:56着

岩手県人連合会

第20回記念ゴルフ大会のご案内



開催日 平成30年10月10日(水)
会場 紫カントリークラブ (あやめ36)
 〒278-0003 千葉県野田市鶴奉463-1
 ☎ 04-7124-1177
募集人員 180名



参加費用 参加費5,000円 プレー費12,500円 (セルフカート・昼食・ドリンク付き)

締め切り 平成30年8月31日

問合せ先 高橋千代吉 (在京花巻ふるさと会)
 ☎ 048-596-2013

尚、本大会は岩手県出身のゴルフ大好きの大会で、昨年は14歳～84歳に至る多くの参加者で賑わいました。第20回記念大会は特に沢山の特別企画を準備致してます。多くの皆様のご参加お待ちしております。

花巻人会親睦交流会

第23回歩こう会開催のお知らせ



既にチラシを入手している方も多いと思いますが、第23回の歩こう会の開催をお知らせ致します。今回は、「新宿御苑から千駄ヶ谷をめぐる明治神宮へ」というテーマで実施します。奮ってご参加下さい。

日時： 平成30年5月26日(土) 小雨決行

集合場所： JR新宿駅南口を出て目の前の甲州街道を渡り新南口に集合

集合時間： 午前10時 (解散は16時頃 JR代々木駅前、二次会も代々木駅前の店を予定)

平成30年度の主な行事予定

開催日	地区名	内容	会場・等	最寄り駅
5月26日	在京花巻人会	第23回歩こう会	新宿御苑～明治神宮	JR新宿駅集合
6月3日	岩手県人連合会	総会&交流会	ホテルラングウッド	JR日暮里駅
7月7日	在京花巻人会	総会&つどい	東京ガーデンパレス	JR御茶ノ水駅
9月15～17日	在京大迫人会	復興支援ツアー	大迫ワインまつり & 気仙沼の旅	
10月10日	岩手県人連合会	第20回ゴルフ大会	紫CC倶楽部	東武野田線野田市駅
10月28日	在京大迫人会	総会&集い	日本教育会館	東京メトロ神保町駅
11月4日	在京石鳥谷町人会	総会&集い	上野精養軒	JR上野駅
11月18日	在京東和町友会	総会&集い	東京ガーデンパレス	JR御茶ノ水駅
11月中旬	在京花巻人会	第24回歩こう会	計画中	